

勝原一鳩ヶ湯 午前2時の採集記

野 坂 千津子

69年夏ほど雨にたたられると、夏のスケジュールはさっぱり。7月30日から降り出し10日あまりは晴天を見ず、お陰で予算はあまたが、ほとんど雨に足を止められてしまった現状の中で、唯一の採集記。名づけて午前2時の採集記

8月6日午後4時勝原着。博物館主催の採集会にまじっての夜間採集会である。小学生から大人まで約50人、部屋の割り当ても決まる。おっと宿の名は、銀嶺荘：1泊2食付きで600円。団体でなければ倍はとられる。夕食は、何でも御注文に応じますという。ワラビのおしたし、ゼンマイの煮付などの山菜料理も味わえる。山の木が引き込んであって、モウソウダケのそげの立つような縦わりが三列掛けられていて、流しうめんをしている。

宿の横を通る小路は、荒島岳への登り道だ。冬はスキー場になる斜面がつづき、テントが二張りあった。多分ここから来たのであろう大学生らしいのが、3人食事をしに来ている。見たところ、汗水汁も出来るらしい。大学生たちが、キャンプしている下方の原っぱが、今晚の採集地である。

11月になって、九頭竜ダムへ遠足のとき、バスの窓からこの原を見たときは、一面に風に吹かれる枯尾花が、夏では、想像もできなかったような銀色の波を打ち、うねっていたが、これは後日談である。その日は、疎らなスキの原だなあ位にしか思わなかった。

いよいよ夕暮も迫る頃、街の昆虫学者の下野谷さんが、夜間採集用具一式を、自動車に積んで到着、みんなで手わけして幕を三張り張る。宿のテラスに一張り、スキ原に、T型に二張り、螢光燈を吊すと、いよいよ採集だ。

幕を張るとたんに、まず、ヒメコガネが緑色の背を光らせて、盛んに飛び付いて来る。幕に垂直な方向から一直線にぶち当たり、ころげ落ちる。子供達がこれに、いや大人共もわっととび付く。子供達は、福井市内の子が多く、昆虫は、図鑑で見て覚えているのが多くなったこの頃である。約30分夢中になって拾う。中には特に多く目立つのがスシコガネ。螢光を受けて光るタマムシ色の羽根が子供心を誘う。さすがにだんだん目が馴れて、同じものは採らなくなる。それにしても、まあヒメコガネを多くとったこと。幕のあちこちを廻わり、幕の下に盛んに飛来して、はいまわる小型のゴミムシを探ることを注意する。

そのうち蛾も来はじめた。スズメガ類の黒っぽい羽根が、バサリ、バサリと幕につかまる。メイガは翅を広げて止まるので、各種の翅の模様もみんなの興味を引いた。

下野谷さんの話では、時間的に変化があるとのこと、ガに弱い私には全く混乱を起すような多様性だ。ガは一旦幕につくと、少しは歩きまわるが、ほとんど再び飛ばない。

7時頃から8時に掛けては、ハアリが非常に多い。それからあとになると、ハアリはほとんど動かなくなり、ところどころに数匹ずつ、お互いに頭部を寄せ合って、放射状に動かなくなる。布のひだのところは特に多い。時間的には早くからおそくまで、ゴミムシが多く集まる。が、これは、割り合いでよく動き廻る方である。

甲虫では、ゴミムシ、カナブン、カミキリ、コガネムシ、テントウムシが多く、その他、カメムシ、ヨコバイ、ハゴロモ、サシガメも多い。思ったよりも、コマユバチや、ヒメバチ等は集まらなかつた。

何といっても、夜間採集はガである。町ではほとんど、お目に掛かれないのでオオミズアオや、トモエガが飛んで来るのである。子供達は、堪らずかん声を挙げる。

パサッと音がする。カブトムシだ。クワガタや、カブトムシは、幕には決して打ち当たることはない。たいてい幕の2~3m手前にとびおりるという下野谷さんの最初の注意でみんな幕の囲いの草原もすっかり踏み荒された感じだ。ダルマ屋では、今年の夏は1匹150円の高値だというので、子供達は目の色を変える。1匹飛んで来ると、3~4人がわっと集まり、あまりの騒ぎに、私たちの子供の頃との相違を見せられた。昔は、よくおもちゃの車などをつけて引かせたものだった。中には、クワガタや、カブトムシ一本揃っているものもある。しかし思ったほど飛んでこない。

採集会に来ている子供は、母親同伴も多い。非常に母親も熱心だ。どんな採集会にも必ず子供よりも熱心に我々の話をメモしたり質問されたりする。最近は、このような親子がふえたように思う。

10時過ぎると、風が出て来た。すると、途端に虫の来るのが少なくなってしまった。風は相当に強く、銀嶺荘の前の原は、ちょうど、風の通り路のようにさえ思えた。幕がぱたぱたとはためき、さきほどまで幕に付いていた小さいシロトホシテントウや、ハアリも振り落されたか少なくなり、ガも、カブトムシなどももう飛来が見当らない。力の強いスズメガが少し幕にへばり付いているだけである。

寝ようとしない少数の生徒達を、11時頃には無理に部屋に入らせた。下野谷さんと、博物館の西村さんと私の三人で、生徒達の熱望するクワガタの数が少ないということで、採りに出かけることにした。

11時過ぎた勝原の川原の風は涼しく、家々の灯が、谷間に水際に点々と連なり、想像以上の家の数が上と下とに分かれて見える。その間の山道を、下野谷さんの車で鳴ヶ湯まで走る。30分位走る。途中の部落では、さすがにもう誰れも起きている気配はない。山間の道の両脇には、夏草

が茂り、しばらく車を止めると、セスジソユムシ、クツワムシの鳴く声がしきりとする。谷のせせらぎの音がする。クワガタやカブトムシを目指すわれわれには、音楽的な観賞の余裕はない。

車をピュッととばして、いたるところ、部落の入口や、橋のたもとの街灯を見つけると、それっぽばかり、三人が、ドアも窓も開けっぱなしで灯の下に集まる。車は道のど真中に乗り捨てて放つぼり出した。

まず、灯の下から地面をなめるように、溝、石段、敷石、石灯と調べていく。いるいる、一旦来た灯の光から抜け出せないらしく、光の届くところでうろうろしている。

村の真中にある公民館の前に止まる。誰れも人気がない。さっそく門牌の囲りをさがす。いるいる、これはまた、大小さまざまな甲虫が、公民館と書いた門牌の板やまわりのはめ板にくつづいていて、ほとんど動かない。それを片っ端から、ほいきた、ほいきたと取って行く。ビニールの袋に放り込む。ウスバカミキリが電灯の笠のすぐ下にいる。ゴマダラカミキリか、触角を動かし、チビクワガタが口器を動かす。こここのところの収穫はだい分あった。

鳩ヶ湯につく。10年ほど前の鳩ヶ湯を知っているだけの私には全く予想外の駐車場と上に輝く水銀灯があった。あちこちに、クワガタの羽根や角がちらばっている。3人がごそごそやっていると、中年の女の人が2人数匹のカブトムシを入れた籠を持って出て来た。泊りがけで虫採りだと言う。きのうからかかって、これだけだと見せた。私たちも、これからだと話す。ここは私たちは採りませんから、まあ精々お採りなさいと別れて、いよいよ発電所のところまで行くことにした。

途中の水門のあたりで幕を張る。発電機から電気を引いて採集する準備を、下野谷さんが、てきぱきと進める。囲りの山や谷は、真暗く、僅かに光を残す空にねむたけに影を浮ばせている。水銀灯が、水門の上に1ヶ所ついている。このあたりは、風もなく、すごい蛾だ。こんなに蛾が多く集まつたのは、初めて見た。水銀灯の下の電柱はまるで蛾で出来ているかのようだ。大小さまざまな形や色のものがびっしりと止っている。甲虫も多いだろうからカブトムシだ、カブトムシだと西さんは懸命に、囲りの草原をさかす。私は専ら幕の前だ。時々、近くでカブトムシの飛び落ちる音がする。シロトホシテントウが多い。ハゴロモ、ヨコバイが目まぐるしく動く。バサッと音がする。見ると、カワゲラである。川か近いからであろう。このほか、オオミズスマシや、ゲンゴロウまでやって来る。アオカミキリモドキは勝原と同じようなものかとれる。はじめは、蛾を取るつもりがあまりなかったのであるが、自然にいろいろの蛾を見ると手が動く。大きな毒びんに5本も採つたであろうか。

珍らしく、自動車の音がすると、先ほどの鳩ヶ湯の女人達が、浴衣かけの男2人と一緒に、様子を見に来た。しばらく蛾の飛来を感嘆して見ていたが、僅かの時間に自分たちよりも、10匹余

りも多い西村さんの袋の中の収穫について採り方を教えてほしいと言う。

そこで下野谷さんの実地指南とあいなった。3人にいろいろと言われて、「お蔭げで、よくわかりました。灯の傍へ直接は来ないんですね、では、宿の草原をもう少しとってみます。」と、よろこんで帰った。これで、あの達も来たかいがあったと言うものだと、三人で話し合う。あしまった。伝授料をもらわずにまいった。

午前一時、幕を張ってから約一時間余りになる。蛾の方は、少しも変わらずに集まる。クワガタ類は余り集まって来ないので、いよいよ、発電所のあたりまで出掛けることにする。

途中の山道は、全く暗黒、世の中で、こんなに暗い所があったという事を久し振りに経験した。ヘッドライトを消せば、三等星の光でも夜空にキラキラと明るかった。山の木々や虫たちも、私の周りを囲む大きな力で、ゆっくりと静かに息付いているようだ。

発電所の事務所の前についた。あちこちには、今までのどのところよりも、甲虫の片羽根や、角の残骸が散らばっている。しめた。いそだ。3人はいきり立つ。

下野谷さんは、堤の上の小じゅりのところ、あの2人は、芝生の横のコンクリート溝。いるいる。右手で取って左手で押えて、あわてて又右手で摑まえようとする。とたんに掌の中で虫がそり返えって、ピンと指をはじかれて、あっと手を離す。あわてて、両手でかき廻わす。私のあわてた姿をご想像願いたい。考えてみたら、こんなにあわてなくても、虫は、ムクリ、ムクリと歩くだけなのに。西村さんは、「これで8匹、これで12匹。」と、声を出して数える。さっきの人達が見たら、きっとよだれものだ。

三人が、かい歌をあけて、ふと我にかかる。「わっ、もう午前2時だ」

「わっ、もう午前2時だ」

「午前2時の採集だね」

「あすの子供たちの笑顔が目に浮ぶ」

勝原——鳩ヶ湯採集の主なもの(蛾以外のもの)

蛾の方は下野谷さんにお任せ。

- (◎) 多数集まって来たもの
- (○) わり合い多いもの

テントウムシ

◎ヒメカメノコテントウ

◎シロトホンテントウ

ジュウロクホシテントウ

◎スジコガネ

キイロテントウ

◎ヒメコガネ

コヒラタゴミムシ
コゴモクムシ
ペーツヒラタゴミムシ
⑩オオアオモリヒラタゴミムシ
ルリヒラタゴミムシ
ヒゲブトゴミムシダマシ

ノコギリクワガタ
ヒラダクワガタ ♀
チビクワガタ

⑩ウスバカミキリ
⑩ゴマフカミキリ
ホソカミキリ

⑩キベリマメゲンゴロウ
オオミズスマシ
アオカミキリモドキ
オバボタル
⑩ツマグロカッコウムシ

⑩ヒメホシカメムシ
キベリカメムシ
エサキモンツキノカメムシ
⑩チャバネアオカムシ
スコットカムシ
⑩クサギカメムシ
ベッコウハゴロモ
クロザシヨコバイ
モンカワゲラ

オオクラカケカワゲラ
シコクホンアメバチ